



# 聖公会大学校

## Sungkonghoe University



ホームページ <http://eng.skhu.ac.kr/eng/index.do>

交流協定締結年月日：2016年5月25日 主管学部：経済学部



### 国際交流の特色

聖公会大学校は、1914年に聖ミカエル神学院として設立され、1994年に聖公会大学校と改称された。1995年には世界聖公会大学校協議会の会員校として加入し活動している。聖公会大学校は3系列（学部）で、規模は大きくなきものの、韓国社会で最も影響力のある大学のひとつとして定評があり、「NGO大学」とも呼ばれるほど、学外の多くの市民団体と密接なネットワークを形成しているユニークな大学である。

### 交流実績（令和4年度～令和6年度）

年度	R4	R5	R6
受入・派遣			
学生の受入	0	9	6
学生の派遣	0	11	18
研究者・職員の受入	0	1	1
研究者・職員の派遣	0	4	4
オンライン交流参加者（本学）	9	0	17
オンライン交流参加者（相手機関）	7	0	7

### 教員からの声

学術交流協定の締結直後から、聖公会大学校社会融合自律学部と本学経済学部は学生を引率し両校を訪問する合同研修のプログラムを進めています。既存の外国语関連研修とは違って、経営系の専門的知識を、講義とフィールドワークの形式で行うという新しい試みでした。

授業は、両国の学生がワンチームで講義とフィールドワークを通して課題を解決し、両国の経済・社会・文化を理解するプロセスになっています。両国の往来が大きく制限されたコロナ禍でもオンラインツールを利用し研修や交流を継続させ、2023年度からは再び両国の教員・学生が往来し、決められたテーマのもと、チーム毎に講義や現地フィールドワークをもとに、調査・分析、資料整理・作成、報告会での発表といった活動を行ってきました。例えば2023年度では「日韓のアントナブレナー比較」、2024年度では「小売業の日韓比較」をテーマに行いました。同時に空いた時間では観光やショッピング、食事などでより交流を深め、異文化コミュニケーションも積極的に行うようにしています。この授業での経験を活かし、学生・教員ともに今後もさまざまな形で国際交流を続けたいと思います。

経済学部准教授 渡邊 孝一郎

### 学生からの声

●2018年度（2018年9月～2019年7月）派遣交換留学  
聖公会大学は仁川に近いソウル郊外に位置しているため、騒がしすぎず落ち着いた地域にあります。地下鉄駅も学校から徒歩10分程度のところにあり、繁華街までは地下鉄に乗って3、40分程度で行けるので休日などは買い物などにすぐ出かけることができます。学校自体は小さく、生徒や留学生はそこまで多くはありませんが、一方で教室移動が楽であったり、留学生だということで珍しがってもらえるため、教授や生徒たちがよく気を遣ってくれたりするなど、利点もたくさんありました。語学堂は秋学期のみ通いましたが、様々な国籍の生徒と友達になることができました。大学の授業は日本の政治やメディアコンテンツ、女性運動史などの授業を受けました。韓国語で韓国人の生徒と共に受ける授業のため、ついていくのが大変で資料や論文を読むのも時間がかかりましたが、授業で出会った友達や先生が助けてくれたり、自習室でずっと勉強したりして単位を取ることができました。現地の学生の勤勉さや意識の高さに圧倒されることもありましたが、そういう環境の中で頑張ることで自分を成長することができました。  
(加藤七海2016年度入学)

●2024年度（2025年3月6日～10日）（特）課題解決型海外合同研修

聖公会大学の学生との交流では、日韓のコンビニをテーマに共同調査を行いました。日本では一緒にコンビニを巡り、品揃えやサービスについてインタビューを実施し、韓国でも現地のコンビニをいくつか回り、共通点や相違点を整理しながら調査を進めました。調査に取り組む中で、日本と韓国のどちらについても新たな発見があり、以前より深く理解できただことが大きな収穫でした。また、授業としての取り組みでありながら、韓国の学生の皆さんとの交流そのものがとても楽しかったです。お互いに翻訳アプリを使いながら積極的にコミュニケーションを図り、言語の壁を越えて関係を築けたことが特に印象に残っています。今回の経験を通して、異文化に対して自ら関わりにいく姿勢や、初めて会う仲間と協力しながら調査を進める力など、多くの成長を実感しました。

(村上七海2023年度入学)